

優秀賞

雨にぬれたえがお

鹿児島県 喜入小学校 二年
小窪 蒼士

ゴールデンウィークに、かぞくで J リーグのしあいを見に行きました。ぼくは、サッカーがだいすきなので、前日からワクワクしていました。

でも、この日は雨がふったりやんだりする、いやな天気でした。しかも、ちゅう車じょうが空いてなくて、とおくから歩くことになりました。だから、スタジアムについたときには、つかれていました。

雨の日は、カップをきておうえんします。カサをさすと、うしろでおうえんしている人が見えないからです。

ぼくは、早くすわりたいし、雨にぬれるのもいやで、いそいでカップをきたいと思っていました。それなのに、カップがからまって、うでが出せません。(しあいがはじまっちゃう)と思うと、ますますうまくきることができずに、イライラしてきました。お母さんにたすけてもらおうと思ったら、ぐずってない弟のおせわでたいへんそうです。

「かしてごらん。」

うしろから、きゅうに手がのびてきました。知らないおばちゃんが、カップのそでをひっぱってくれたのです。よこにいた妹にも、カップをきせてくれました。それだけではありません。

「おしりがぬれちゃうから、ちょっとまってね。」

と言って、雨でぬれたいすを自分のタオルでふいてくれました。たのんでいないのに、ササっといろいろなことをしてくれるので、ぼくはびっくりしていました。

「ありがとうございます。」

しあいがはじまったので、ぼくはおばちゃんにおれいを言って、すわりました。

休けい中に後ろを見ると、さっきのおばちゃんと目が合いました。ぼくは、ニコッとわらってくれたおばちゃんの顔を見て、ハッとしました。雨でぬれていたからです。ぼくは、雨がかかるたびにタオルでふいていたけれど、おばちゃんはふけないのかもしれない。ぼくのいすをふいたから、タオルがびちょびちょなんだ。そう思うと、「ごめんなさい」の気もちと、おばちゃんのやさしさをさらに大きくかんじ、心がザワザワしました。

(どうしよう。おばちゃんにタオルをわたしてあげたいな。声をかけようかな。でも、はずかしいな) ぼくがまよっている間に、時間がすぎていきました。

この日のサッカーは、せんしゅのかっこいいプレーよりも、おばちゃんのニコニコのえがおが、いちばんの思い出です。

ぼくは、こまっている人に出会ったら、たすけてあげられるかな。知らんぷりしてしまうかもしれないし、うまくできないかもしれない。でも、おばちゃんのやさしいえがおを思い出すと、ゆう気を出せると思います。

これからは、こまっている人に声をかけてみたいと思います。たすけてもらおうと、どんな気もちになるか、ぼくは知っているからです。